

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196400055		
法人名	株式会社 陽光		
事業所名	グル プホーム ひだまりの家		
所在地	留萌郡小平町字小平町432 - 9		
自己評価作成日	平成25年6月24日	評価結果市町村受理日	平成25年7月19日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0196400055-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1 - 6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成25年7月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同社で隣接の有料老人ホームとの交流、合同行事や職員間の情報交換などの協力体制の整備。町内や近隣での行事の参加などの交流。訪問・面会や施設見学等は常時対応可能。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<事故の未然防止への取り組み>
ヒヤリ・ハットの導入で、起こりえる事故の原因究明、是正処置の可能性やデータ分析を行い、職員会議で話し合い事故の未然防止に努めている。また、職員間で共有が出来るように簡素化して帳票の記入しやすい工夫や分析方法について話し合いが行われている。

<ケアサービスの質の向上に向けた取り組み>
職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、外部研修参加の奨励やニーズに基づいた認知症ケアについて等の内部研修を充実させて、ケアサービスの質の向上に努めている。また、資格取得を奨励して、資格試験の受講機会を確保して、資格者の増員に繋げている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に独自の方針を掲示である「ゆっくり、楽しく、やさしく」を掲示し、利用者に介護できるよう努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作り上げ、職員会議を通じて理念を共有し、その実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社内行事の際に近隣住民への参加の声掛け、町内、近隣市街地の商店への買物や訪問販売等を行っている。	地域のお祭りの子供神輿や小学校、中学校の生徒の発表会参加等で地元の人々との交流の機会を設けている。また、地元での買い物や散歩、訪問販売やボランティアの受け入れなどで日常的な交流に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部からの見学は随時受け入れ可能。町内の文化展等の出展も行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催し、管理者とケアリーダーが参加して日頃の活動報告や話し合いを行っている。	運営推進会議は年6回を目安に開催し、日常生活の様子や利用状況等報告すると共に具体的な意見交換が行われている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他、必要に応じ連絡を取り合っている。	町担当者とは、日常業務を通じて相談や情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間は玄関に施錠しているが、日中は施錠せずに開戸時には音が鳴るようにしている。ベッド柵については、転落の危険がある場合は家族から了解を得て柵を使用しているが、最小限にとどめるようにしている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を内部研修を通じて正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「自分がどのような介護をしてほしいか」ということを念頭に置き、職員一人一人が心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員共々スキルアップに努め、個々が制度の在り方を学んでいる。利用者の必要に応じ活用していけるような支援を心掛ける。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、解約、改定時も同様に納得できるような説明を心掛けている。疑問点には随時説明を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会等において意見交換、苦情等を話せるような機会を設定している。	外部者や家族等が意見や苦情等言い表せるように苦情等の申し出先の掲示や意見箱を設置し、その機会を設けている。	今後は、家族等に行事参加への呼びかけや来訪しやすい環境作り等を職員間で検討しているため、その実践に期待します。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見交換、利用者の状況報告を行い管理者、ケアリーダーに報告できる体制を作っている。	職員はすべて正社員で雇用し、個々の事情等考慮した休日の希望や有給休暇取得の奨励等働きやすい環境整備に取り組んでいる。また、職員会議等で意見や提案を言い表せる機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休みの伺いや、個々の能力を活用できる環境づくり、意欲の尊重に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等、個々の能力に応じた参加の促進、スキルアップ等も対応している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同社ではあるが、隣接の有料老人ホームの入居者と合同でのレク参加や、月1回のリーダー会議で意見交換を行い、サービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接において不安等の確認をし、添うようにケアを行うことで信頼関係の構築を行う。入居後もその都度対応している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後の新たな不安等も傾聴し、安心した生活を送れるようサポートに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接等で希望されるサービス等を相談し、確認を行っている。他のサービス利用中の場合は継続していくか確認している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活している者として協力し合い、生活が快適なものとなるように心掛けている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、もしくは2カ月に1回事業所通信を発行し、状態を家族に伝えている他、訪問時に状態を伝えたり、要望の聞き取りを行っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親類以外でも訪問は常時可能となっており、できる限り来ていただけるよう努めている。	友人・知人が来訪しやすい環境作りや地元での買い物等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の時間もとれるようにしているが、個性の把握や個々のペースを維持できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中のお見舞い、他界された場合の葬儀の参列、引越されて場合の書面での交流などを行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの趣味の合わせた余暇活動や、やりたいことの把握などで実施に向けて支援している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時や、入居後も随時生活歴の聞き取りなどを行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、バイタル測定、入浴時の全身観察などの状態把握。可能な作業には声掛けで一緒に行うようにしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員がそれぞれ担当について利用者の状態把握を行い、会議時に報告しケアプラン作成の情報としている。	本人、家族の意見や思い、モニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映した具体的な介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当制を取り入れ利用者一人一人の状況を把握し、ケア会議時に対応法を出席者で検討している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1週間のうち、3日間を入浴なしの日にし、レク、外出、買物等のサービスを実施できるよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の開催や参加により、個々の能力を發揮できるよう取り組みを行っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの医療機関の受診継続、希望があれば協力医の受診支援も行っている。	往診や定期受診の支援等で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置されていないが、不明点などは隣接の有料老人ホームの看護師から助言、状態把握などを行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のお見舞いや通院時には医師から必要な対応法などの相談を行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の場合は重要事項説明書に記載している。緊急時には家族、主治医との連携や、必要に応じ入院治療等の支援を行っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの徹底や、対応法についてはデスク横に掲示している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーの設置、緊急連絡網の掲示。年2回避難訓練を実施している。	年2回の火災避難訓練の実施やスプリンクラー、火災報知器、通報装置等の設備が完備し、定期点検も実施している。	今後は、夜間や津波等を想定した避難訓練を計画しているので、地域の人達の協力を得ながら実践することを期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの居室があり、自身の空間としている。トイレにはカーテンを設置し視覚的配慮を行っている。個室にもナースコールを設置している。	職員会議や内部研修で誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	不穏時の隣接の老人ホームの訪問、外出等の支援を行っている。買物に関しては、同行の希望を聞き対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間は居室で過ごすよう対応しているが、日中は本人の意思を尊重している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整髪のほか、散髪は出張美容師に依頼している。女性は化粧、男性はヘアアレンジなども行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好み、咀嚼力、アレルギーなどを考慮し、職員が献立作成を行っている。入居者は声掛けで調理の参加している。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に調理の準備や盛り付け、味付けや食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は個人記録に記録し、随時把握できるようにしていく。また嚥下低下の場合とはろみをつけるなどの配慮を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥防止、口腔内清潔保持のため、朝、就寝前のほか必要時には口腔ケアを行っている。義歯は就寝前には洗浄剤につけるなどの対応を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人記録などで排便状況の把握を行っている。便秘時には水分補給や食事摂取などに配慮しながら予防・軽減に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴で、本人の意向に沿うに支援している。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に合わせて週2～3回を目安に入浴支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明、室温の調整や、不眠時に訴えを傾聴し不安を軽減できるよう対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に綴り、一人ひとりの服薬状況がわかりやすいようにしている。事故防止のために服薬管理は2名体制で行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ、手芸やパズルなどのゲーム、体操などを行い気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好天の日は屋外でのレクや、希望があれば外食などを行っている。また、なるべく全員が参加できるよう配慮して行っている。ほかにも日用品の買物希望などがあれば随時外出援助を行っている。	木造平屋造りの1ユニットのグループホームで、広い敷地内には外気浴や戸外で過ごせるように椅子やテーブルが用意され、レストランでの外食やお祭り参加、花見や花火大会見物など普段は行けないような場所でも戸外に出かけられるように外出支援をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理が可能であれば本人に管理していただいております。買物の際も自身で支払っている。金銭管理が困難な場合でも買物時は自身で選べるよう支援を行い、支払いは代行している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に使用できる電話は設置していないが、希望があれば電話の取り次ぎは可能。手紙なども必要に応じ代筆を行っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用ホールに季節ごとの作品や行事時の写真などの掲示を行っている。作品も可能であれば入居者と職員が共同制作している。	スペースのゆったりしたりリビングでは、ひとりになったり、談笑ができるようにソファや椅子が配置され、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士が交流を持てるよう空間作りを心掛けている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や希望があれば仏壇などの持ちこみも可能で、心地よく生活できるよう支援を行っている。	居室には、使い慣れた家具や寝具が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー対応で、廊下やトイレ等の必要箇所には手すりを設置している。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	意見箱を設置するなど、意見の聞き取りは可能であるが、話合いの機会が無い。	家族からの意見をいただく機会を作る。	行事時の参加の呼びかけ等の強化を行う。	12か月
2	12	有給消化が難しい状況で、緊急時等にはシフト交代で対応している。	体調不良や冠婚葬祭等の緊急時には気兼ねなく有給取得ができる状況を検討していく。	シフト調整で有休を取得しやすい状況を作っていく。	6か月
3	49	買物や外出の機会を増やして外部との関わりを今以上に充実させたい。	外食や、町内の行事時等に外出を行い、気分転換を図りたい。	1日の業務の割付けに余裕を作り、外部との交流の機会を充実させる。	12か月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。